

## 岩手大学農学部教員公募

### 公募要領

#### 1. 対象者

(1) 所属・職名：応用生物化学課程 教授 1名

(2) 専門分野：応用生物化学

本学応用生物化学課程においては、微生物の多様な代謝機能を生化学的に解明し、その知見を社会に生かすための研究が行われている。微生物を利用した酵素や生理活性物質などの物質生産に関する研究業績を有し、研究成果を地域・国際貢献の形で社会に還元するための研究を推進し、それを通じて学生を教育できる人材を求める。産業微生物学の見地から生化学的又は分子生物学的に研究できる人材が望ましい。

(3) 担当授業科目：微生物学概論, 微生物生理機能学, 産業微生物学, 微生物学実験(分担), 全学共通教育科目(分担), 専門基礎科目(分担), 卒業研究(以上学部科目), 微生物機能利用学特論, 酵素化学特論(分担), 応用生物化学特別研究(以上大学院修士課程科目)

(4) 資格条件:

ア. 博士(またはPh.D.)の学位を有し、上記の専門分野において優れた業績を有する者

イ. 上記の専門分野の教育研究に関する十分な能力と意欲を有し、課程及び学部の運営に積極的に取り組める者

(5) 任用予定：平成25年12月1日以降のできるだけ早い時期

#### 2. 提出書類

(1) 履歴書(写真添付)：1通

(2) 研究業績一覧：下記の分類に従って、A4用紙横書きに年代順に記載する。

(3) 主要論文の別刷り：5編以内

(4) 現在までの教育研究内容の概要(地域貢献の内容についても合わせて記載して下さい)：A4用紙2枚程度

(5) 着任後の教育研究に対する抱負：A4用紙2枚程度

(6) 特筆すべき教育・研究業績(受賞や特許など)、競争的資金獲得状況、社会活動や学会活動など

(7) 本人について問い合わせができる研究者の氏名と連絡先：2名

3. 応募期日：平成25年7月31日(水)まで。(当方から連絡する場合の宛先、電話番号及びメールアドレスを明記のこと)

4. 選考方法：一次：書類選考、二次：プレゼンテーション及び面接(但し、旅費等の経費は自己負担して下さい。)

5. 提出方法：上記の提出書類(1)～(7)を合わせて1つのPDFファイルに変換し、下記のメールアドレスにお送り下さい。

6. 書類送り先：岩手大学農学部応用生物化学課程 河合成直(e-mail: skawai@iwate-u.ac.jp) 宛尚、メールのタイトルは「教員応募書類(応用生物化学)」と記載して下さい。

#### [付記]

・業績及び資格に係わる評価が同等である場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用する。

・応用生物化学課程の状況(平成25年6月12日現在) 現員：教授5名、准教授5名、助教1名。

## 「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌\*<sup>1</sup>、(b) 紀要\*<sup>2</sup>、(c) プロシーディングス、E. その他\*<sup>3</sup>、F. 報告書・事業報告書等\*<sup>4</sup>、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表\*<sup>5</sup>、I. 国内学会発表\*<sup>5</sup>の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- \*1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- \*2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- \*3：商業雑誌、資料等に記載する。
- \*4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。
- \*5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- \*6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- \*7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
  1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- \*8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- \*9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- \*10：Journal は略記する。
- \*11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

### A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)  
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)  
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)  
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences"(Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

#### B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)  
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)  
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

#### C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)  
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)  
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

#### D. 原著論文

##### (a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)  
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)  
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)  
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

##### (b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)  
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

##### (c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)  
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.